

〔一〕(評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 3点×3≒9点

(解答) a≒二 b≒ホ c≒ロ

問二 3点×2≒6点

(解答) なるようなものであり (3点)

棄却されることはない (3点)

※順不同可。ただし、それぞれ解答以外は不可✖。

問三 10点

(模範解答例)

A○4点

B○3点

道德は人々の行為に先立つ「決まり」「原則」「常識」として成立し、具体的行為をなすかなさぬかの判断を導くものであり、 現実に合わせた修正はされないということ。(10点)

C○3点

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A「道德は人々の行為に先立つ「決まり」「原則」「常識」として成立し」(4点)

※〈徳は人々の行為に先立つもの(「決まり」「原則」「常識」)として成立〉の内容に○。

B「具体的行為をなすかなさぬかの判断を導くものであり」(3点)

※〈具体的行為をなすかなさぬかの判断を導くもの〉の内容に○。

△「具体的行為の判断を導くものであり」のように、「行為をなすかどうかの判断を導くもの」という内容のヌケは▲1点減点で△2点。

○「(行為を) なすかどうか(の判断)」となっていないなくても、「行為の善悪の判断を導くもの」とあれば○。

C「現実に合わせて修正はされない」(3点)

※〈現実に合わせて(道徳的判断は)修正はされない〉の内容に○。

○「(道徳は) 現実を超越したもの」というように説明しても○。

△次の(例)のように、具体例で、以下の内容が説明されている場合は△4点とする。

(例) 現実にはどこかで人は殺されているということは事実だが、この経験的事実が「人を殺してはならない」という命題の正しさに変更を迫ったりはしないということ。

問四 5点

(解答) 亦

問五 10点

(模範解答例)

A○4点

B○4点

生命についての常識的な定義が揺らぎ、新しい定義が生み出されていく一方、新旧二つの定義を結びつける

C○2点

超越論的な性格をもつ 「生命の定義の定義」が考察されるようになる。(10点)

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A「生命についての常識的な定義が揺らぎ、新しい定義が生み出されていく」(4点)

※「旧来の生命定義と異なる、新しい生命の定義が生まれる」という内容。

B「新旧二つの定義を結びつける超越論的な性格をもつ」(4点)

△「新旧二つの定義を結び付ける」のヌケは▲2点減点で△2点

C「「生命の定義の定義」が考察されるようになる」(2点)

○「「生命の定義の定義」が考えられるようになる・生まれる」などで○。

問六 5点

(解答) 八

問七 5点

(解答)

二

〔二〕(評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 復興 2 論断 3 遍歴 4 早世(早逝)

問二 6点

(模範解答例)

A ○3点 B ○3点

報酬を得て 生計を成立させるための職業。 (6点)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素B参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素B不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：二〇字以内 九字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

A 「報酬を得て」(3点)

- ✖ 「報酬」についての指摘のないものは、要素A加点なし ✖0点。
- 「給料をもらい」「報酬を目的として」などでも○。

B 「生計を成立させるための職業」(3点)

- ✖ 「生計のための手段」であることについて説明していないものは、要素B加点なし ✖0点。
- 「生活に必要なための職業」などでも○。

問三 8点

(模範解答例)

A ○2点

目的合理的行為と価値合理的行為とする二つの合理的行為の概念は、

B ○3点 C ○3点

実際には「二つの合理的行為の 両面を捉えた区分であるから。(58字) (8点)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素C照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：六十字以内 **二十九字以下のものは全体不可**（0点）

■各加点要素の加点の条件

A「目的合理的行為と価値合理的行為とする二つの合理的行為の概念は」（2点）

- ※傍線部直前の「これら」の内容について説明していないものは要素A加点なし **✖0点**。

B「実際には一つの合理的行為の」（3点）

- ※要素Aの二つの合理的行為にはそれぞれ逆の側面があることから、それらが一つの行為であるということを説明していないものは要素B加点なし **✖0点**。（↓Aが○でないとBは○にならない）

C「両面を捉えた区分であるから」（3点）

- ※要素Aの二つは要素Bの両面であるということを説明していないものは、要素C加点なし **✖0点**。（↓Bが○でないと、Cは○にならない）

問四 4点

（解答） ホ

問五 12点

（模範解答例）

A ○3点

近代資本主義精神の起源について、

C ○3点

実は、人間は自己をデザインできる存在であると考える点で

B ○3点

ウェーバーとブレンターノの考えは一見対立するように見えるが、

D ○3点

似通っている。（80字）（12点）

■形式上の不備

- ・文末表現：要素D参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：八〇字以内 **三九字以下のものは全体不可**（0点）

■各加点要素の加点の条件

- ※各要素同意表現可。

A 「近代資本主義精神の起源について」(3点)

※ 「近代資本主義精神の起源」についての論争であることを説明していないものは要素A加点なし ※0点。

B 「ウェーバーとブレンターノの考えは一見対立するように見えるが」(3点)

※ 要素Aは、ウェーバーとブレンターノの対立する考えによるものであるということを説明していないものは要素B加点なし ※0点。

C 「実は、人間が自己をデザインできる存在であると考える点で」(3点)

※ 自己をデザインできる人間という存在について説明をしていないものは要素C加点なし ※0点。

D 「似通っている」(3点)

※ ウェーバーブレンターノは要素Cについて似ているということを説明していないものは要素D加点なし ※0点。

問六 12点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

C ○3点

D ○3点

職人技が発揮される仕事ではプライドを感じられるが、 職業の形態の変化に伴ってそれは難しくなっ

ていく、とはいえ、 そもそも人間は自己の人生をデザインする存在であるという点で、 究極のプライドを

もつと考えている。(100字) (12点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数：一〇〇字以内 四九字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「職人技が発揮される仕事ではプライドを感じられるが」(3点)

※第3段落から、職人のプライドについて説明していないものは要素A加点なし ※0点。
(質の高い・よい仕事をしようとする習性・本能・プライドをもって、職人技を発揮して仕事をする など)

B 「職業の形態の変化に伴ってそれは難しくなっていく、とはいえ」(3点)

※第5段落から、要素Aのあり方が難しくなっていくということの説明していないものは要素B加点なし ※0点。
(職人仕事工場労働になると職人のプライドを持った仕事はしにくい など)

C 「そもそも人間とは自己の人生をデザインする存在であるという点で」(3点)

※後半から、ピコ・デッラ・ミランドラ、ブレンターノ、ウエーバーに共通する「人間は自己をデザインする存在」ということについて説明していないものは要素C加点数なし ※0点。

D 「究極のプライドをもつと考えている」(3点)

※要素Cから、それが究極のプライドであることを説明していないものは要素D加点数なし ※0点。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 1点×4＝4点

(解答) a かみ b こうし c かいまみ d すずり

「ポイント」

※ひらがな・現代仮名遣いでなくてはならない。

a ※ 「もり」「まもり」「しゅ」等

b ※ 「かうし」等

c ※ 「かきまみ」「のぞきみ」等

d ※ 「じしみ」等

問二 2点×3＝6点

(解答) ① イ ② ト ③ ニ

問三 2点×4＝8点

(解答) 甲 ホ 乙 口 丙 ハ

問四 6点+3点×2＝12点

A (解答例) 6点

A ○2点

お仕える女房が

B ○1点

大勢いる奥の方で

C ○1点

灯火の光に背を向けているのが、

D ○2点

弁の君であるようだ。

「ポイント」

○句読点の有無は不問。

A 「お仕える女房が」(2点)

※ 「さぶらふ女房」の現代語訳

① 「仕える女房が」の意があれば【1点】。

② 右の①の意がある上で謙譲の意「おろする・申し上げる」の意もあれば【2点】。

※ ②のみでは加点無し※。

B 「大勢いる奥の方で」(1点)

※ 「あまたなる奥の方に」の現代語訳

○ 「大勢」は「たくさん」などでもよい。

○ 「奥の方」は「奥」でも○とする。

C 「灯火の光に背を向けているのが」(1点)

※ 「火影に背きうちある」の現代語訳

○ 「灯火の光」は「灯り」などでもよい。

○ 「背を向けている」は「背いている」などでもよい。✕。

D 「弁の君であるようだ」(2点)

※ 「この人なんめり」の現代語訳

① 「弁の君だ」の意があれば【1点】。

② 右の①の意がある上で**推定(推量)**の意「ようだ(らしい・だろう)・と思われる・と見える」の意もあれば【2点】。

※ 「弁の君だ」の意がなく推定の意がある「この人(その人)であるようだ」は【1点】。

B (解答例) 3点

A○1点

B○2点

何とも言えず 優美であった。

「ポイント」

○句読点の有無は不問。

A 「何とも言えず」(1点)

※ 「えもいはず」の現代語訳

○ 「言いようもなく・言いようもないほどに」などでもよい。

✕ 「表現しようがないほどに」の意にとれない「何も言わず・何も言えずに」などは✕。

B 「優美であった」(2点)

※ 「飽かず」の現代語訳

① 「優美だ・美しい」の意、それに順ずる意があれば【1点】。「妖艶」などで○。

② 右の①の意がある上で「たり」の**完了・存続の意**「た・〜ていた・〜でいる」の意もあれば【2点】。
(「優美でいる。美しくあった」などでもよしとする)

✕ ②のみでは加点無し✕。

C (解答例) 3点

A○2点

B○1点

返事さえも しない。

「ポイント」

A 「返事さえも」(2点)

※ 「いらへだに」の現代語訳

① 「返事」は「返答・答え・応答」などでもよい。この意があれば【1点】。

② 右の①の意がある上で「だに」の訳「〜さえ」の意もあれば【2点】。

○ 「さえ」は「すら」でもよしとする。

✕ 「も」だけでは✕。

B 「しない」(1点)

※「せず」の現代語訳

✕「(が)ない」では✕。

問五 5点

(解答例)

A〇3点

B〇2点

美しい弁の君の姿に見とれながら、立ちつくしている様子。(27字)(5点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 30字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「美しい弁の君の姿に見とれながら」(3点)

※「弁の君」という表現がある場合。

- ① 「弁の君の姿に」、もしくは、「弁の君を見て」の意があれば【1点】。
- ・ ①の意がある上で「美しい・美しさ」の意もあれば【2点】。
- ・ ①の意がある上で「見とれる・心奪われる」の意もあれば【2点】。
- ・ ①の意がある上で「美しい」の意も「見とれる・心奪われる」の意もあれば【3点】。

※「弁の君」という表現がない場合。

- ・ 「美しさに見とれて(心奪われて)」の意があれば【2点】。
- ・ 「見とれて(心奪われて)」の意がない「美しさに」や、「美しい」の意がない「見とれて(心奪われて)」など場合は【1点】。

B 「立ちつくしている様子」(2点)

○ 「立ちつくしている」は「呆然としている・ぼうっとしている・動けずにいる・そこにたたずむ」などでもよい。

※文末表現は「様子」が望ましいが、それに準ずる「姿」などでもよしとする。

問六 6点

(解答例)

A〇3点

「目見て心を奪われて、忘れられなくなった」

B〇3点

弁の君にもう一度会いたいと思ったが、会えなかったから。(47字)(6点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 50字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「一目見て心を奪われて、忘れられなくなった」(3点)

○ 「弁の君を見て忘れられなくなった・弁の君に一目惚れした」などのように「弁の君を見て好きになった・一目惚れした」という内容が読み取ればよい。(「弁の君」は文章全体から読み取ればよい)

△ 「見て」の意が読み取れない「弁の君を好きになった」などは△2点。

△ 「弁の君」の意が読み取れない「一目見て好きになった」などは△1点。

× 「見て」の意も「弁の君」の意も読み取れない場合は×0点。

※ 「昨晚・格子の間から」などの意味の有無は不問。

B 「弁の君にもう一度会いたいと思ったが、会えなかったから」(3点)

① 「弁の君に会えなかったから」の意が読み取れば【2点】。

② 右の①の意がある上で「もう一度会いたいと思ったが・昨日と同様に見たいと思ったが・会おうとして同じ場所へ行ったが」などの意もあれば【3点】。

※ 「格子が下ろされていて」という意味の有無は不問。

問七 8点

(解答例)

A ○3点

世の中に全く嘘ということがないならば

C ○1点

実際にはこの世には嘘ということがあるのだ

B ○3点

信頼できさうにも思えるあなたの手紙ですが、

D ○1点

信用することとはできません。(8点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定ナシ。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「世の中に全く嘘ということがないならば」(3点)

○ 「世の中には」「男女の仲に」でもよしとする。

▲ この意がない場合は▲1点減点。

○ 「嘘」は「偽り」などでもよい。

▲ 「全く」の意がない場合は▲1点減点。

○ 「全く」は「一切」などでも○。

B 「信頼できそうにも思えるあなたの手紙ですが」(3点)

○ 「信頼できる手紙だ・当てにできる手紙だ・信じられると思って手紙を見ているなど」の意が読み取れればよい。

※右の意がある時は「あなたの」の有無は不問。

▲ 「手紙」の意がない「あなたは信頼できる」は▲減点1「天1点】。

C 「実際にはこの世には嘘ということがあるので」(1点)

○ 「嘘があるので」の意が読み取れればよい。「実際には・この世には」の有無は不問。

※要素Aが【0点】でない場合は、Aを受けていれば、「そうではないので」だけでも○とする。

D 「信用することはできません」(1点)

○ 「信用できない・あてにできない」などの意が読み取れればよい○。

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

(解答) a と

c まず

b ついに

d おもえらく

「採点のポイント」

▲歴史的仮名遣いの場合には、▲減点1点。

例 b 「つひに」 c 「まづ」

※送り仮名の不足は0点。

問二 4点

(解答) 狭

「採点のポイント」

▲漢字の誤りは減点1。

○「狭」は許容。

※本文の漢字のまま書くことの注意を与える。

※誤字「峽」「峽」「挟」「狭」「狭」などは不可。

問三 5点+6点＝11点

(i) 5点

A ○1点

B ○1点

C ○1点

D ○2点

(解答例)

ようじん

あげて

いふ(う)

へからず

(5点)

「採点のポイント」

※A「やうじん」「ようひと」「ようじん」など不可。

△D「へからず」は△1点

(ii) 6点

A○3点

B○3点

(解答例)

普通の人は 数えきれないほどたくさんいた (6点)

「採点のポイント」

○Aは「平庸」「平凡」「並の」など可。

△Bは「たくさんいる」だけの場合△2点。

○Bは「数えきれないほどだ」は可○。

○採点例

A 3

B 3

1 普通の人 は 数えきれないほど いた (6点)

A 3

B 3

(不問)

2 凡庸な人は たいへん多いと いわざるを得ない (6点)

A ×

B 3

3 雇っている人は いちいち数えていえないほど 沢山いた (4点)

問四 6点

(解答) 不伐其能歆其徳

「採点のポイント」

▲誤字は一字につき減点1点。

問五 7点

A○4点

(解答例) もっぱら他人の困窮を救済するのに奔走し、

B○3点

自分の個人的なことは後回しにした。 (7点)

「採点のポイント」

○A 「もっぱら」は「ひたすら」などでよいが、「もっぱら」のままでも可。

▲A 「もっぱら」の意が無い場合は▲1点減点。

○B 「する」「した」など時制は不問。

○B 「自分のこと」「個人的なこと」どちらかだけでも可。

(解答) 莫^レ不^ニ延^レ頸 願^レ交 焉

「採点のポイント」

▲誤り一か所につき減点1。

問七 9点

A〇1点

B〇2点

(解答例) 世間の正義には従わないこともあるが、一旦言ったこと引き受けたことは必ず守り、

C〇1点

D〇2点

窮地に陥った人や貧しい人を 命がけで救うという果敢な行動をとり、

E〇2点

F〇1点

自身の能力や徳を誇ることがない、立派な人物。(9点)

「採点のポイント」

A 「世間の正義に従わないこともあるが」(1点)

○ 「世間の法を犯すこともあるが」「行動が正義に合致しないこともあるが」などで○。

B 「一旦言ったこと引き受けたことは必ず守り」(2点)

○ 「約束は必ず守り」「言った事を守る」などでも許容○。

C 「窮地に陥った人や貧しい人を」(1点)

○ 「窮地に陥った人」「貧しい人」などどちらかがあれば可○。

○ 「他者の危機」も可。

○ ただ、「人を」救うも許容○。

D 「命がけで救うという果敢な行動をとり」(2点)

○ 「わが身を顧みず」「命がけで」「果敢な行動」などどれかあれば可○。

E 「自身の能力や徳を誇ることがない」(2点)

○ 「功績を自慢しない」なども許容。

F 「立派な人物」(1点)

○ 「頼りになる人物」「人望がある人物」なども許容。